

昭和47年 雨田実氏第4代会長に就任。長期執行部へ。

副会長に橋本隆市氏留任。扇谷明典氏、新しく専務理事に。

以後副会長は高橋常美先生、宝崎錠二先生に代わったが、平成8年迄の長きにわたって、献身的に御苦労された。

7月

扇谷泰典氏入会（7月3日）

牛丸 喬氏入会（7月5日）

8月

牛丸 博、トシ、喬各氏転出（8月9日）

牛丸 博先生は、昭和26～31年迄美歯会理事。昭和32年～35年迄同専務理事。昭和36～46年迄第3代扇谷一貫会長を副会長として補佐。昭和38、9年、道歯代議員を歴任。

我路の炭鉱閉山を契機に、岩見沢で移転、開業された。人物紹介あり。

昭和48年

日本歯科医師会設立70周年

美唄一南美唄間の石炭輸送廃止

常盤小学校廃校、沼東中学校廃校、常盤中学校廃校

2月17日

第1回、道歯会道央北ブロック連絡協議会が滝川市で開催される。

空知、岩見沢、夕張、留萌、美唄の5郡歯会の連絡協議会が発足。第1回開催。

道歯理事 篠原常夫、留萌歯科医師会から、大友専太郎、菊田富夫、石川健治、岩見沢歯科医師会から鍵谷光三、空知歯科医師会より、原岡良策、多比良武雄、武内敏彦、美唄歯科医師会から、雨田実、橋本隆市、扇谷明典の諸先生の出席をみた。夕張歯科医師会は欠席であった。

青申会の実情についてモデル地区にある留萌歯会から解説があり、美歯から、道歯就業規則を、都会的なものと、ローカル的なものに分けて作成してほしい旨の発言あり。老人医療対策道歯交付金について、乳幼児の診療費無料化や、3才児検診、“脱保険”等について、幅広く議論が行われた。

3月24日

道歯主催による社保講習会を美唄道銀会議室において開催した。

坂本技官、杉山 弘道歯理事に講師をお願いした。

昭和48年7月発行道歯会通信より

日歯会発会70周年を記念し、日歯会に功績のあった会員として、美歯より飯田右翼先生、北野幸夫先生、扇谷一貫先生も表彰される。

日歯会設立70周年を迎え、美唄から3先生表彰

発会以来、本年で70周年を迎える日歯では記念式典を行う事となり日歯会に功績のあった会員を表彰する事となった。

その該当会員の推薦かたを道歯会を通じて依頼された。

美唄からは日歯会員として60年の実績を持つ道歯の御意見番を以て自ら任ずる、飯田右翼先生、美唄歯会会長 5期10年の北野幸夫先生、同じく美唄歯会会長 6期11年の扇谷一貫先生のご参方を推薦した。

以前の炭碓華やかなりし時代はともかく、10数名の会員より居ない現在の美唄歯会にして見れば何にも増して喜ばしい事と言わねばならない。

乳幼児の医療費無料化実施へ

美唄市でも今秋から乳幼児の医療費無料化実施

人気取り政策には付き合い切れない

美唄市では今秋から乳幼児の医療費無料化を行う予定である。

6月29日突然美唄市民生部の課長から市として今秋から乳幼児医療の無料化を歯科をも含めて実施したいから宜敷くと協力かたを要請して来た。

当方としては突然の申し入れであり、即答は致し兼ねるし、7月の美歯会例会にはかった上で返答するが老人医療でさえ色々と問題のある現在に於いて道で行う予定の無いと聞いて居る乳幼児の歯科の無料化は非常に難しい問題であると答えて置いたけれど、これから当分は忙しい事になりそうではある。(雨田)

昭和49年

沼東小学校廃校

10月 美唄にも鉄筋の歯科医院

今春以来建築中の宝崎錠二先生の歯科医院が完成し、開院の運びとなる。

11月 現顧問の北野先生が、美唄市民功労賞を受けられた。

昭和50年

7月 道央北ブロック協議会開催

道央、岩、空、夕、留、美の5歯会の会長、副会長、専務、代議員参加による協議会を、7月6日、安岡日歯代議員、篠原道歯理事を迎えて、日本海上に浮かぶ楽園、焼尻島布目旅館会議室において開催した。

橋本昌隆先生

5月5日入会 10月4日転出

美歯副会長長男 札幌で開業の為。

昭和51年

北海道歯科医師会創立満50周年（大正15年7月設立以来）

新生歯科医師会としては30周年記念。

5月29日

余市町「水明閣」に親睦旅行会。

余市川の清流の緑、後志の山々に聳すカッコウの声を聞きながら、鮎のフルコースを堪能。

翌朝の膳についた、採りたてのウニの味の格別な事。

扇谷泰典先生 10月末転出 当別町で開業の為。

昭和52年

夕張歯科医師会、岩見沢歯科医師会と統合、合併

2月28日

新年恒例会ならびに社保講習

札幌第一ホテルでの恒例の新年会に先立ち、道歯社保担当理事の館先生に、約2時間にわたって、保険の勉強を教わる。北野先生、扇谷一貫先生の美唄市市政功労賞受賞祝賀会も兼ねる所、両先生とも折悪しく健康上の事情で出席かなわず。

昭和53年

1月25日 庄内会長、坂本技官、谷口常務を講師として、岩歯、美歯の両歯会会員を対象として岩見沢において、社保集団指導講習会が開催された。歯内療法、4歳児未満の処置が重点的に改正され、新規項目として、EMR、根管形成、加圧根充加算等、9項目の導入があった。

3月11日 道央北ブロック役員連絡協議会、滝川で開催さる。



高橋 常美(美)
雨田 実(美)
石川 健司(留)
熊本 博一(空)
山田 高橋(岩)
扇谷 明典(美)
鈴木 良彦(空)
館山 淳一(岩)
押尾 良悦(空)
川上 聖市(留)
竹内 敏彦(空)
菊田 富夫(富)
鎌谷 光三(岩)
木村 萱(岩)
篠原 常夫(空)
大友 専太郎(留)

道央北ブロック役員連絡協議会（昭和53年3月11日 於滝川）

自衛隊の美唄駐屯開始

5 月 三井美唄炭鉱後に自衛隊が駐屯するに伴い、同医務室に扇谷一貫終身会員が週 3 回勤務する事になった。

5 月 26 日

地区医療協議会、三師会会議が、美唄市立病院に於いて開催された。

地域医療におけるレベルアップを要望する声が、高まりつつある昨今、行政側主導になる事をさける為、三師会の地域における団結をより強固にする事を申し合わせた。

また、医療担当者側主導に逆行する人員構成にはしない事をあわせて確認した。

美唄歯会から、雨田会長、扇谷専務理事、高橋道歯代議員の 3 名が出席した。

12 月 7 日 三師会一堂に会す。

美唄市三師会が発足。第 1 回総会を市内南陽軒にて開催する。小原議長のもと議事進行し、初代会長に坂田唯祐市立病院院長を、副会長には、美歯会長 雨田 実先生、薬剤師会より林 幸男先生。

初代幹事に美歯会より宝崎錠二先生。

医師会、薬剤師会、歯科医師会からなる三師会の団結は、時代の要請であり、特に親睦を図ることを目的として設立された。

昭和54年 美唄市人口 38,702人 歯科医師数11名

1 月 20 日

道歯との役員協議会を、当地美唄で開催。

道歯から庄内宗夫会長、喜田副会長、尾崎専務理事、小尾常務理事、谷口常務理事、篠原理事、山田常任監事出席さる。

戦前、戦後を通じ、道歯役員と一堂に介しての協議会の開催は空前の事。

健保改正、医療管理、税対策、学術、学校保健等のほかに、美歯の健保請求の低点数の改善も協議の対象となった。

1 月 22 日 扇谷一貫先生御逝去

昨年秋から札幌天使病院にて入院加療中にあった第 3 代美歯会会長扇谷一貫先生が亡くなられた。

昭和初年から50年以上にわたり地域医療の為に尽力された。歴代会長の紹介参照の事。

昭和55年

1 月 26 日 江頭ミサヲ先生御逝去

昭和 8 年満洲第一廟知安陸軍病院に勤務。

昭和21年より三菱美唄炭鉱病院歯科に勤務。昭和47年、同鉱閉山により退職。

以後は、3 才児検診、並びに幼児歯科衛生事業に尽力。

5月 小森英世先生 旭川より転入、開業（5月1日）

9月28日 地域医療協議会の専門部会として健康教育専門部会、救急医療専門部会発足。

12月1日 上記両部会、市役所にて第2回開催

昭和56年

7月 美歯単独では初めての歯科医療介補者講習会がスエヒロにて開催された。

少人数の会ゆえに仲々困難の多かったものを開催まで献身的な情熱でこぎつけた学術担当宝崎錠二先生と、全面的に支援してくれた而歯歯科工業と石田歯科機械店に感謝。土曜日午後からの開催で多数の出席は危ぶまれたが、予定を越える受講者で、空知歯会からも4名出席した。

11月 北野先生と飯田先生道歯会顕彰

道歯会顕彰規程第2条第1号該当者として、80才以上で在会50年以上の会員として、札幌国際ホテルに於いて表彰を受けられた。

92才の飯田先生の現役引退は止むを得ないにせよ、82才にして現役で診療に従事されている北野先生には、頭が下がるばかりです。両先生のご多幸を祈念しながら、我々もあやかりたいと思った1日である。

12月 大坪義和先生入会（12月1日）

昭和57年

北海道歯科医師会史発刊

1月 道歯会道央北ブロックを美唄にて開催

道歯道央北ブロック協議会を2年ぶりに開催する。

1月16日午後2時標記の役員連絡協議会を美唄商工会議所会議室に於いて開催した。空知、留萌、岩見沢、美唄の四郡歯会の役員協議会を美唄が当番での開催は道央北ブロック始まって以来空前のことといえる。折悪しく天災とも言うべき吹雪に見舞われ、国鉄は不通に近い状態の上各種交通機関も寸断と言う最悪の状態の中を各種の交通機関を乗り換え乗り継ぎしてのご出席を頂いたことは当番歯会として感謝にたえない。出席者は留萌は菊田会長、石川副会長、田中専務理事、大友専太郎顧問の4名、空知歯会は安達道歯理事、篠原会長、武内、鈴木両副会長、押尾専務理事、安岡顕代議員の6名、岩見沢歯会は山口専務理事、今理事の2名、美唄歯会は雨田会長以下全員の出席は当然であろう。悪天候のため定刻を1時間近く遅れて開催を見た協議会ではあったが、税務、保健、医療費通報制、外注技工科、学校医手当等に関して活発な討議を行い、久々の道央北ブロック協議会としては一応の成果を挙げた事にはなるが、最大の議題とも言うべき次期道歯理事の推せんが決定されなかった事は、道央北ブロック役員連絡協議会としては空前のことで、何といってかなしむべきか言葉に窮するばかりであり、後に控えた懇親会での悪酔が心配である。懇親会は寿楽で行われたが山海の珍味とまでは行かなかったけれど、遠路悪天候をおしてご出席を頂いた諸先生がたに結構ご満足を頂いたことは当番歯会として一応の喜びとしたいし、最年長の太友専太郎顧問が古丹別から一日がかりでご出席頂いたことは美唄歯会として胸の熱くなる思いで感謝申し上げたい。

楽しみの二次会は美唄紅燈街という処までは良かったけれど、産炭地の紅燈街の事、日ごろの品の宜しい？道央北ブロックの役員のかたがたに果たしてご満足頂けるかどうか甚だ心配ではあったが、そこは日頃から如才ない諸先生がた、いずれを見ても山家（やまが）育ちか、はたまた岸壁の母よろしくの女性ばかり多いのに、大いに飲み大いに歌って美唄の夜を楽しんで頂いたことは、美唄歯会一同肩の荷を降した如き軽快な気持で三次会に向かった事は言わずもがなであるが、次期道歯理事の事が気にかかる事には変わりはない。

（道歯会通信より雨田先生）

1月23～24日

札幌第1ホテルで新年会を兼ねての親睦旅行会を開催した。

健康で長命は皆の願い

1月23、24日の2日間新年会を兼ねて親睦旅行会を札幌第1ホテルで開催する。

第1ホテルでの美唄歯会の新年会は歴史？が永く過去20年以上の歳月を数える程の恒例化したもので、12月に申込みを忘れてもホテル側から本年もご用意してありますのでという案内が必ず来るという用意の良さのため相も変わらず第1ホテルという事になった。

本年は美歯会元会長であり顧問の北野先生の80歳以上で在会50年という道歯会顕彰規程による表彰に対する美唄歯会としての祝賀会と大坪会員の入会歓迎会とを兼ねたもので殊に北野先生には今日まで内助の功宜しく、うらやましき限りの奥様のご出席を頂いての祝賀会と言う事になった。同時に飯田先生もと願いたい所ではあっても現在千葉県船橋市にお住まいの上に92歳の老齢のため冬期の旅行はご無理との事で大変残念の極みではあるけれどやむを得ない。

昨年11月入会の大坪会員は昭和24年美唄生まれの美唄育ちという根っからの美唄人であり、美唄歯会唯一の学位を持った会員として今後の活躍を願って止まないものであり、一昨年小森会員が入会され、昨年度大坪会員と最小の寂しさをかこって居た美唄歯会も減少に歯止めがかかった事は、新年と共に大いなる喜びとしたい。82歳を迎えて益々お元気で毎日の診療に従事されている北野先生には、美唄歯会一同最敬礼の外とて無く、あやかりたいのみである。

（雨田 実 記）



北野先生ご夫妻を囲んでの新年会

同年 5 月13日 飯田右翼先生御逝去

大正12年渡道、北海道炭鉱汽船夕張炭鉱病院に勤務の後、奈井江町にて開業。

昭和32年、美唄市東明町に移り、昭和44年 4 月迄、55年に及ぶ歯科医師生活を過ごす。

美歯終身会員第一号。道歯会代議員、美歯会監事を歴任。昭和56年道歯会功労会員として顕彰受く。(80才以上、在会50年以上) 人物紹介あり。

10月 宝崎錠二先生が 8 月半ばから、胆のう炎により美唄労災病院に入院、10月初旬に退院。

12月 橋本副会長 美唄市市政功労賞受く。

年来の市内小中学校校医、又長く地域医療に貢献するをもって受賞する。

昭和58年

健保法改正(社保本人 1 割負担)

1 月22日 美歯副会長橋本先生の市政功労賞受賞祝賀を兼ねて恒例の新年会が札幌第1ホテルで開かれた。

12月

北野幸夫顧問、学校保健功労者として、道学校保健会から表彰される。

高橋常美先生、美唄市市政功労者として表彰される。

長年の市内小中学校校医並びに地域医療に貢献するをもって表彰される。

昭和59年

2 月26日 橋本隆市先生御逝去(人物紹介あり)

10月 山崎芳郎先生が北海道社会貢献賞を受賞す。

昭和十二年月形町に開業以来の地域医療に貢献する事を広く認められ、北海道知事表彰を受く。

11月 雨田会長市政功労賞受賞

昭和36年以来、市内小中高校の学校歯科医として現在迄、又地域医療協議会役員、美唄保健所運営協議会役員、国保運営協議会委員を、昭和47年以来歴任し、市政に貢献した。

昭和60年

2 月 孫泰一先生入会(2 月14日)

3 月15日夜 扇谷明典美歯会専務理事宅半焼。

医院併用住宅のボイラー室から出火、半焼。幸い発見が早く、延焼を防止した為、近隣の住宅、店舗等に対する被害は無く、1名の負傷者も無かった事は、不幸中の幸いであった。

4 月 宝崎めぐみ先生入会(4 月26日)

昭和61年

4月 笹川政嗣先生入会（4月1日）

6月 平隆一先生入会（6月1日）

この頃美唄でも開業ラッシュ

人口の減りつつあるといえる美唄地区で、逆に近年、歯科医院の新規開業が相次いでいる。文字通り、人口約4万の地区には、数件の開業でも文字通り大変な開業ラッシュといえる。

7月 社保個別指導、美唄で開催

「社保国保老保担当者に対する指導に付いて別紙の通り実施するので貴会役員の立ち合いを乞う」という内容の公文書を民生部長から受け取った。該当機関4機関4名。7月29日美唄商工会議所会議室で実施の運びとなった。道保険課から石垣技官と事務官、道歯から石常務理事、針谷礼歯理事、雨田美歯会会長、高橋副会長、扇谷専務理事、小森保険担当理事が立会いの上で実施した。

当日までの準備は物心両面にわたって分かりすぎる程分かる。所属歯会の役員とても気持ちちは同じであることに変わりはない。個々の時間は長短はあったものの、夕刻迄に無事に指導が終了をみた事は大いなる喜びである。

因に、社保個別指導は、実に当会始まって以来の事であった。

9月24日

北海道農業協同組合と、北海道通運の組合員に対する事業所歯科検診が、美唄歯科医師会の担当で実施した。美唄歯会企画調査担当の宝崎錠二理事と同医院勤務の吉川由香歯科衛生士の全面的な協力のもとに道歯会検診車内で行われた。

12月 三師会幹事 宝崎錠二先生退任

昭和54年三師会発足以来。後任に小森美歯理事。

昭和63年

8月 吉村治範先生入会（8月24日）

10月 山崎芳郎先生厚生大臣省受賞

昭和十二年月形町で開業後、即ち、戦前・戦中・戦後の五十有余年に渡る、献身的な地域医療への貢献を道、国レベルで評価されたものである。

平成元年

1月7日 昭和天皇崩御

「平成」と改元

1月 宝崎めぐみ先生転出（3月30日）

4月 前山善彦先生入会（4月8日）

9月7日 一日看護部長 高橋副会長夫人

美唄市地区医療協議会では、9月5日から全国的に行われる救急医療週間に合わせての行事の一つ、一日看護部長を7日、市立美唄病院において、市保健推進医院協議会会長の高橋恵美子さんに委嘱。高橋美歯副会長の恵美子夫人は、その他にも美唄市保健所運営協議会委員、美唄市健康センター運営協議会委員等の要職に忙しい毎日の中を大変御苦労様でした。

平成2年

美唄市開基百年

3月19日 山崎芳郎先生御逝去

享年77才。人物紹介あり

5月29日 社保医療担当者の個別指導が岩見沢市金内ビルで行われた。美歯会では一歯科医院が対象であり、指導医療官は石垣法夫技官である。

7月21、22日 健康まつり

開基百年を迎える美唄市がそれを記念し盛り沢山の行事が行われた。歯の健康相談コーナーも設けられ、雨田会長と、工藤理事が、市民からの歯の健康相談にあたったが、老人から幼児までの広い年齢層の市民の予想をはるかに越えた数の相談に忙殺された。

平成3年

美唄市保健センターオープン

1月 大坪義和先生、三師会で口腔ガンについて御講演。担当幹事 小森先生から平隆一先生にバトンタッチ。

7月 第2回美唄市高齢者コンクール実施

福祉と老人の街にしては

7月初め美唄市長から、第2回高齢者健康コンクールの後援依頼の公文書を受け取った。標記事業は、平成2年度新規事業として実施し、男女各1名の健康美唄一を選出、高齢期の健康啓発に、それぞれ一役を担って頂いたところであります。本年度も実施いたしますので、よろしく後援下さいますようお願い申し上げます。

美唄市高齢者健康コンクール実施要綱

趣旨、人生80年代を迎え、高齢者がいかに健康で生きがいある日々を送るかが老人福祉の推進上極めて重要である。

ここに、本市高齢者の健康診査を奨励し、心身ともに健康にして、永く社会の発展に寄与された高齢者を祝福し、もって高齢者の健康増進と老人福祉の向上にむけて、市民の健康、長寿への意識啓発を図る。共催 美唄市・美唄市社会福祉協議会。後援 美唄市医師会・美唄歯科医師会・美唄市保健所・美唄市老人クラブ連合会。

第2次健康診査7月16日 美唄市保健センターに於いて行う。(第1次健康診査の結果、特に優れた健康高齢者13名について実施する)。

診査①歯科②血色③皮膚緊張④言語⑤背、腰椎の曲がり方⑥歩き方⑦精神機能、その他について、美唄医師会、美唄歯科医師会、美唄保健所、美唄社会福祉協議会、美唄老人クラブ連合会の各代表による合評で決定する。対象者は明治39年9月9日15日以前に生まれた人（9月15日で85歳以上の人）となっており、歯科の先生は第2次健康診査にご出席の上、口腔診査をお願いします。という但し書がアンダーライン入りで書かれていた。昨年に続いて2回目でもやはり緊張はする。

7月16日第2次健康診査当日、美唄保健センターに出向して、男子7名、女子6名の元気印の代表とも言うにふさわしい人達の口腔診査を実施して驚いた。8020運動を地で行く老人がいたのである。

85歳で自分の歯が22歯、殆ど動揺もなく勿論健全歯。診査しているこちらが恥ずかしくなってしまった。異例な所でご夫妻で、第2次診査に選ばれた1組がいた事も又、88歳と86歳であるだけでも、特筆に値する。最高齢者は90歳が1名おり、口腔診査の後での総合評での男女各1名の優勝者として美唄代表を決めるべき鳩首会議には、医師会長以下各位、本当に参ってしまった。こういうのを、うれしい悲鳴とでも言うべきであろうか。

美唄に於いては高齢者健康コンクールは平成3年度で第2回目であるが、全道高齢者健康コンクールのルーツは古く、第1回は昭和35年に初めて開催し、それ以来毎年実施し本年度は32回目であり、初めは満80歳以上を高齢者としたが、昨平成2年度から85歳以上を高齢者とする事に改められたという。道の主な役所は、道生活福祉部、道保健環境部、道社会福祉協議会、道長寿社会振興財団、これは役所ではないが、道老人クラブ連合会の共催で毎年実施している。

各市町村で選出された男女各1名の優秀老人を、各支庁単位で男女各1名の優勝者を選出して、中央診査委員会に於いて最終診査を実施して、健康優良老人、男女各5名を選出する。

さらにこの男女各5名の中から札幌に於いての選考によって、北海道一男女各1名、準北海道男女各1名、優良男女各3名を決定して表彰するとしている。不思議といえば、大変に不思議なのは、高齢人口で全道トップの美唄市が、30年以上にわたって黙っていて、昨年初めて実施に踏み切った（この事は良い事であるが）老人と福祉の街と自他共に、ゆるしている街であるだけに、余りにも遅きに失したのではないかと、くやまれてならない。

（雨田 実 記）

10月25日 第2回高齢者健康コンクールの入賞者の表彰式を、美唄市民会館にて行った。

入賞の決定は、医師会、歯科医師会、保健所老人クラブ連合会、社会福祉協議会の各代表による合評で、健康美唄一男女各1名を美唄代表として空知予選に推薦した。

平成4年

北海道歯科医師会新会館落成

（札幌市中央区北1条東9丁目11番地）

1月1日 北野幸夫先生御逝去

美唄歯科医師会、顧問、北野幸夫先生は、去年11月末、検査のため美唄労災病院に入院され、2週間程度の日程で検査が終了し、12月半ばには退院が予定されて居り、トイレなども、ご自分で歩いて用を済ませられる程度の体調であったというのに、突然、有り得な